

製品名: ATG10 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07282**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ATG10 APG10L PP12616
別名	Ubiquitin-like-conjugating enzyme ATG10 (EC 6.3.2.-; Autophagy-related protein 10; APG10-like)
遺伝子 ID	83734.0
SwissProt ID	Q9H0Y0
免疫原	AA 範囲: 1-50 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

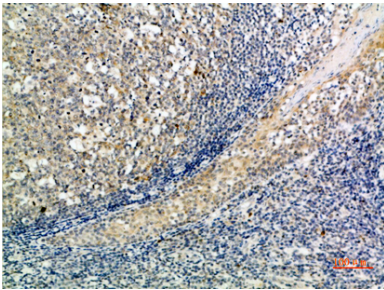
オートファジーは、リソソームによる細胞質コンパートメントの大量分解プロセスです。ATG10は、オートファゴソーム形成に必須

の2つのユビキチン様修飾に関与する E2 様酵素です。ATG10 は、酵母 Apg8 のホモログである MAP-LC3 (MAP1LC3A; MIM 601242) の可溶性形態を ATG12 (MIM 609608) と ATG5 (MIM 604261) で結合させ、膜結合型へと修飾します (Nemoto et al., 2003 [PubMed 12890687])。[OMIM 提供、2008 年 3 月]、機能: オートファジーにおいて役割を果たす (類似性による)。ATG12 結合酵素 (E2 類似酵素) は、ATG5 認識分子として機能すると考えられる。類似性: ATG10 ファミリーに属する。サブユニット: MAP1LC3A と相互作用する。MAP1LC3A と相互作用することで、ATG12 を ATG5 に結合する役割を果たす。また、ATG5 または ATG7 のいずれかと直接相互作用することもできる。、

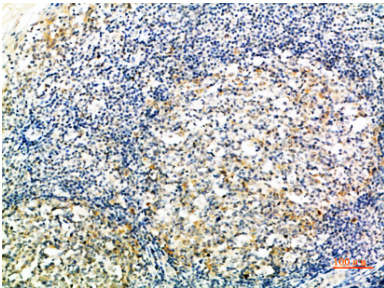
研究分野

細胞生物学

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された